

南八甲田高原野菜生産組合総会



南八甲田高原野菜生産組合（小林喜代勝組合長）は4月18日、平川市の葛川克雪管理センターで、「第46回通常総会」を開き、組合員36人が出席しました。

総会では、今後も野菜産地として継続的に発展するため計画出荷体制を整え、所得向上と経営安定を目指すことを確認しました。



挨拶をする小林組合長

きぬさや出荷説明会



尾上青果センターは5月2日、平賀園芸センターできぬさやの出荷説明会を開きました。出荷規格や注意事項、今後の栽培管理などを確認しました。

尾上青果センターの齋藤寿徳統括は、「一人一人の品質基準のバラツキを無くして、市場からの銘柄確立と価格向上を目指してほしい」と説明しました。また、今後の管理として、病害虫防除のため薬剤散布間隔を守るよう呼び掛けました。

青森県産のきぬさやは高級品として、市場では高値で取引されています。ハウスや露地栽培で11月いっぱいまで収穫。県内外の市場に約7000箱（1箱1^{キロ}）の出荷を計画しています。



出荷基準を確認する生産者

アスパラガス目揃え会



常盤青果センターは4月21日、常盤にんにくセンターでアスパラガスの目揃え会を開きました。生産者約20人が参加し、品質統一を図るため出荷基準などを確認しました。

同センターの佐々木篤統括が収穫や出荷などについて説明。「収穫基準は約27センチとし、長さが足りない場合は下部が紫色のため絶対に収穫しない。また、暑い時間帯の収穫は品質低下の原因になるので避けてほしい」と呼び掛けました。

出荷は9月中旬頃まで行われ、約5000箱（1箱4.5^{キロ}）を県内に出荷する予定です。



収穫基準を確認する生産者

